

# ごあいさつ

富士フィルムはI&I (Imaging & Information) - すなわち、映像をキャッチして画像を記録する「Imaging」と画像を情報目的に合わせて最適化処理する「Information」- を事業の中核に、限りなく広がるこの映像と情報のフィールドにおいて、高品質で安定した製品・サービスを提供することで社会に貢献することを使命としております。化学の領域で培った技術を先進のIT技術と有機的に結び付け、デジタルイメージングをはじめ、幅広い分野で業界をリードする事業活動を展開しております。

また、当社の社会貢献に対する考え方は、会社創立以来の基本理念である「環境保全は経営の根幹をなす」を原点に発展してきました。「自然環境に対する配慮(人間と自然との調和)」と「化学物質に関する安全の確保」を常に目指し、これまで様々な施策を遂行、課題に取り組んで参りました。

2002年4月には新しい環境中期方針である「富士フィルムグループ グリーン・ポリシー」を制定いたしました。その基本方針の中で、私どもは製品・サービス・企業活動での高い「環境品質」を実現することを目標として掲げております。

“環境品質”とは、製品そのものが環境負荷をいかに少なく設計されているかを表しています。また、環境への取り組みの質の高さ、すなわち製品が全てのライフサイクル過程において、いかに環境負荷の少ない企業活動をしているかということも表しています。私どもは製品設計、生産活動、販売活動において“環境品質”を高めることにより、地球の持続可能な発展に貢献しながら企業としても成長していきたいと考えております。

当社は、2002年度末、「富士フィルムグループ グリーン・ポリシー」の重点課題として、「環境効率の向上(経済面と環境面のバランス)」を加えました。当社の事業活動により生ずる6つの環境負荷を対象に、これらを低減させながら経済面での成果としての売上高を伸ばし、その比率である環境効率を全て2010年度に2000年度の2倍にすることを目標にしております。必ずやこの目標を達成し、富士フィルムの社会的責任を果たす所存です。

2002年度の最も大きな成果の一つは、製品・サービスについて、グループ全体に共通した環境配慮設計のフレームワークを定めたことです。当社では2003年4月から全面導入をいたしました。それに先立ちいくつかの製品でトライアルを行いました。デジタルカメラで日本初の「エコリーフ環境ラベル」を取得した「FinePix F410」は、その成果の一例であります。その他にも「写ルンですNight&Day」、プリンピックスデジタルプリントシステム「プリンチャオQn」、デジタルミラボ「フロンティア340E」などの環境配慮製品を発表いたしました。

その他にも環境負荷低減施策として、VOC(揮発性有機化合物)の大気排出量削減、紙製容器包装材料の削減などにおいて成果を挙げましたが、生産量の増加や品種改良に伴う試作の増加などでCO<sub>2</sub>排出量や廃棄物発生量は増加しております。既に燃料転換等対策を一部開始しておりますが、今後よりインパクトの大きな施策を立案、実施し環境効率の改善に結び付けて参ります。

環境以外の面でも社員行動規範の見直しを行い、2003年4月に改定版を発行いたしました。当社は高い企業倫理に従ってフェアな事業活動を行う企業として、これまで日本国内のみならず全世界から信頼をいただいております。そしてこれからも、「明るく真面目で勤勉な企業風土」を更に向上していくことが富士フィルムの存続、発展のために欠かせないものと考えております。また、パートナーとの関係、人事・雇用・労働安全衛生などの社会性に関する情報開示も進め、企業の透明性を向上させて参ります。そのために本書も従来の「環境レポート」から「社会・環境レポート」に改称し、更に内容を充実させました。

今回お届けする「富士フィルム 社会・環境レポート2003」は“持続可能な発展”に向けた当社の取り組みを、新しい形でご報告する第一歩と考えております。今後とも、私どもの取り組みに対しまして皆様の忌憚のないご意見・ご要望をお聞かせいただければ幸いです。

2003年8月



取締役会長

代表取締役社長

大西 貴

古森 重隆